

SAN HOLDINGS

燦ホールディングス ハートフル

Heartful



燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

新型コロナウイルスの流行で、「終活」への考えに変化

予測不可能な現代社会だからこそ、 今ある不安を解決して、 “豊かな未来のための終活”をしたい。

調査によると、「終活」という言葉の認知度は95%と、もはや誰もが知るものとなっています。まだ、「終活」経験者は7%と少ないものの、コロナ禍を経て、「終活」の必要性を感じている人が増加しています。これからの「終活」のトレンドをご紹介します。

「終活」は認知度の高さに比べ、 なぜ実践者が少なかったのか？

多くの人が、「終活」は終焉の準備と、ネガティブにとらえ、積極的にやってみようという気持ちになりにくい点があげられます。また、既に「終活」を実践している人も、「のこされる家族に迷惑をかけたくない」といった理由から始められる方が多く、自分自身のために、気軽に始めるものといった意識が低いことが、実践者数の増加の妨げになっているようです。

しかし、「終活をしたいと思っている」人

が、約6割存在していることも事実で、もっと気軽に自分のために始めるといったポジティブなイメージが広まることで、「終活」を実践する人は、さらに増加することが考えられます。

コロナ禍をきっかけに 「終活」の考え方に変化

コロナ禍は、今までのライフスタイル、価値観など、様々なものに変化をもたらしました。「終活」も例外ではありません。コロナ禍で、「自分もいつどうなるかわからな

い」といったことから、「死」を身近に感じ、「終活」の必要性を考える人が増加しています。

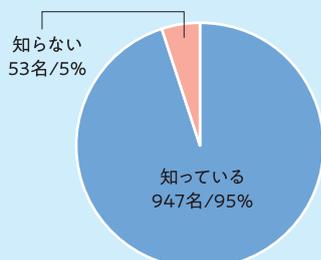
また、コロナ前であれば、「終活」を始める年代は、60～70代以上のシニアになってからというイメージが強かったところ、コロナ禍を経て「いつから始めても良い」と考える人が台頭し、「終活」＝シニアといったイメージが崩れつつあります。

「終活」の内容は、 人それぞれに異なるもの

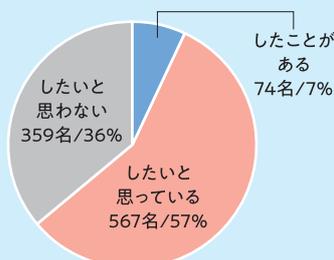
言葉の浸透とともに、「終活」を実践する人は、年齢の幅も広がり、ライフスタイルも様々になってきました。「終活」は、誰もが同じことをすれば良いものでなく、その人ごとに異なる、将来に向けた準備、不安に思うことの解決などを行うものです。

最近では、単身者の増加から、“おひとりさまの終活”への注目も高まっています。

Q.「終活」という言葉を知っていますか？



Q.「終活」をしたことがありますか？



こらからの「終活」は、 ポジティブ思考を取り入れて

調査によると、「終活」を行う理由は、「のこされる家族に迷惑をかけたくない」が、ダントツのトップです。このような理由が上がるということは、今までに、葬儀や相続などで困った経験を持っている人がいかに多く、のこされる家族にそのようなこと

を味合わせたくないといった思いが強いのだということがわかります。

また、歳をとり、体力がなくなってからは、まず「終活」を実践するモチベーションがあがりません。そのためにも、「終活」は、元気なうちに、ポジティブな気持ちで実践することが大切です。

早いうちから「終活」を実践することは、考えるべき人生も長くなります。その長い

人生においての不安を取り除き、「豊かな未来を手に入れる」ためのアクションと考えれば、「終活」を実践する人は、もっと増加していくことが予測されます。

益田ファミリーのライフエンディングのお悩みをプロが解決

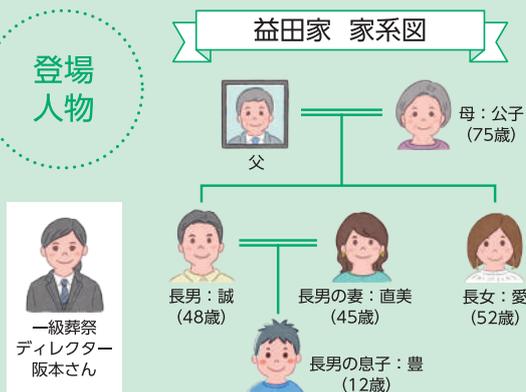
2040年には65歳以上の単独世帯が40%に! 漠然とかかえる老後の不安、「おひとりさまの終活」は何をすれば良い?

未婚率の増加や、核家族化の影響を受け、単身世帯が増加しています。更に高齢化が進むことで、高齢者の単身世帯は更に増加することが見込まれています。老後も、おひとりさまライフを謳歌するために、どのような終活をすれば良いのかをご紹介します。

益田家の長女 愛は、仕事もプライベートも充実した、“おひとりさま”を謳歌してきました。ところが、コロナ禍で自由に出かけることも、人と接することもままならない状況になったことで、将来に漠然とした不安を抱くようになりました。

そのようなとき、職場の先輩である“おひとりさま”仲間が緊急入院。頼れる身内もなく困っていると聞き、自身のこれからの真剣に考えなければと思立ち、阪本さんに相談をしてみることに。

登場人物



今日は、母に心配をかけたくないので、1人できたのです。



どうしたのですか?



こんなこと、阪本さんに相談すべきかどうか迷ったのだけど 実は…

愛は阪本さんに、会社でのことを話し、おひとりさまの老後が急に心配になったと相談します。



それは心配ですね。今、具体的に心配なことはありますか?



う〜ん。そういわれると、歳をとって、一人だと大変そうと、漠然と考えていたので、具体的にと言っても、何を心配すれば良いのかわからないというか。



ではまず、愛さんが心配していることを洗い出してみませんか。



そうですね。やっぱり、弟家族に負担をかけたくないので、歳をとってから病気をしたらどうしようとか、自分が死んだときどうなるのだろうかとかですかね?



Q.「終活」の目的はどのようなことだと思いますか？



そうですね。将来のことは心配ですよね。まずは、心配ごとは一人で抱え込まず、専門家や専門業者に任せるというのも大切です。



専門家？



はい。例えば、病院への付き添いや、買い物代行など、シニア向けのサービスも最近が増えてきましたし、ものの整理をサポートしてくれる業者もいます。



そういったサービスもあるんですね。



また、あまり考えたくないと思われるかもしれませんが、葬祭信託といった、ご自身のライフエンディングについて、計画しその費用を銀行で管理してもらうといったものもあります。



色々あるんですね。これは、知っておかないと後悔しそう。



終活は、あわてて行う必要はないので、愛さんが将来に向けて、不安に思っていることを少しずつ、ご自身のペースで、解決していったらどうでしょうか？



なんとなくあせってしまいましたが、ちょっと安心しました。



そうですね。将来の不安を終活で少しずつも解決していくことで、「豊かな未来」を作ることができるものです。またいつでも相談してくださいね。あと、公益社のグループ会社が運営している、終活に特化した、「みんなが選んだ終活」では、終活あんしんよろず相談という、終活カウンセラーが無料で相談をお受けしているサービスもあるので、よろしければ、こちらも利用してみてください。

終活 あんしん よろず相談 ダイヤル

みんなが選んだ終活 検索

<https://www.eranda.jp>



はい。今度電話してみます！

重要ポイント

- 漠然と将来を心配せず、心配事を具体的に洗い出す
- 心配事の解決方法を見つけ、将来への不安を払拭
- 自分だけで考えるのではなく、専門家にも相談
- 終活は、あせらず自分のペースで

この人に聞きました！



公益社 用賀会館館長、
1級葬祭ディレクター
阪本 さおり(さかもと さおり)

今までの葬儀担当件数は500件以上、「事前相談」「終活セミナー」「家族葬セミナー」などの講師も務める。

“おひとりさま”といっても様々。 未婚の方、パートナーを亡くされた方など、 それぞれに、必要な「終活」を 実践することが大切

最近、“おひとりさまの終活”が話題になることが増えています。今回は終活カウンセラーとして活躍されている鎌田氏に、“おひとりさま”の終活で気をつけるべきことを聞きました。

“物理的なおひとりさま”と “精神的な“おひとりさま”!?

いまや、“終活”という言葉はポピュラーになり、その中でも、“おひとりさまの終活”にフォーカスされることも増えてきました。しかし、“おひとりさま”といっても、様々なケースがあります。

大きく分けると2つのケースがあります。1つは、独身者、パートナーに先立たれたなど、物理的な“おひとりさま”です。もう1つは、家族はいらっしゃるものの、様々な理由により、今は家族と疎遠になったり、音信不通、関係を断つなどの“精神的なおひとりさま”です。

“おひとりさま”といっても、みなさん様々なので、終活に必要なことも様々です。



老後2,000万円問題をきっかけに 老後に不安を抱える人が増加

2019年に「老後2,000万円問題」が、多くのメディアで取り上げられました。それをきっかけに、若い世代にも老後への不安が広まり、終活への関心が高まりました。

その後、新型コロナウイルス感染症の流行で、メディアで取り上げられることも少なくなりましたが、コロナ禍によって、「いつ何が起ころかわからない」といった不安を持つ人が増加し、また終活への関心は高まっているようです。

終活の相談は誰にすれば良いのか

終活への関心は高まっているものの、終活を実際に行っている人は、まだまだ少ないといえます。その要因は、色々あると思いますが、「誰に相談すれば良いのかわからない」と

鎌田 真紀子 (かまた まきこ)
ライフフォワード株式会社
執行役員
終活カウンセラー
国家資格 キャリアコンサルタント
CSスペシャリスト



20年以上勤務した大手生命保険会社で、終活関連の業務に長く従事。ライフフォワードで運営している“みんなが選んだ終活”にて、長年の経験と、自身の喪主経験やお墓探しの体験などを活かして、終活全般のお客様のお困りごとの解決をサポートしている。

いうことがあげられます。

調査でも自分の「終活」について相談した相手は、1位の「同居する家族」が70%で群を抜いて多いですが、“おひとりさま”だとその相談相手は近くにいません。

信託銀行が終活のサービスを始めたりにしてありますが、ある程度資産を持った方が対象だったり、WEBサイトで紹介されている終活相談もどこにすれば良いのか、判断がつきづらいののではないかと思います。

現在、私が携わっている“みんなが選んだ終活”という終活のポータルサイトは、「誰に相談したら良いのかわからない」といった人を対象に立ち上げ、無料で「終活あんしんよろず相談」というサービスを提供しています。

“おひとりさま”で多い、終活の相談内容は？

「終活あんしんよろず相談」には、連日たくさんのご相談をいただいています。

“おひとりさま”からは、「財産管理」「相続」「死後の賃貸住宅や荷物の整理」「死後の事務管理」「死後のペットのこと」「介護施設への入居」「入院」「身元保証人について」「墓じまい」などのご相談をいただくことが多いです。また、コロナ禍で在宅勤務が増えているからか「持ち物、荷物の(生前)整理」についてもご相談いただく機会が増えています。

“おひとりさま”の終活で気をつけること

“終活”を、ご自身の死に向けての準備と考えると、ついつい億劫になってしまいます。

しかし、単身で生活をされていると、将来を不安に思うことは多々あります。そのような想いで生活していても、楽しい毎日を過ごせないのではないのでしょうか。

将来への不安を抱えたままでなく、信頼できる専門家と一っしょに不安を解決する方法を見つけることが大切です。

燦ホールディングス グループとは

1932年に「株式会社 公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社 公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社 葬仙」、「株式会社 タルイ」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で唯一の東証プライム上場企業です。

<https://www.san-hd.co.jp/>

シニア世代とご家族の人生によりそい、ささえる ライフエンディングパートナー

